

## 海外滞在・留学のすすめ—平成の福沢諭吉をめざそう！

マレーシア・日本国際工科院  
副院長、東京農工大学名誉教授  
山本 隆司

近年、各界で青少年に対して海外での滞在をすすめる機運が高まっています。大学では正規の単位を与えるプログラムが設けられ、また企業では海外経験を踏んだ学生の採用に関心を持つようになりました。これは、日本の将来には、ひろく青少年に海外の多様な国の人々との接触・連携を強め、また他国の実情を知ってもらう必要があると関係者が強く意識するようになったからでしょう。日本の文化的環境や生活様式に身をおいて生きていくだけでは、世界の動向や現在進行している諸課題を人類の重要課題として感じないままに過ごすことになりかねません。昨今は“ボーダーレス”、“グローバル化”の時代と言われますが、我々日本人は普通の生き方に終始していれば、国際的に孤立しかねません。



さいわい、筑波大学は教職員の方々の努力で、留学生の比率が他大学に比べて高く、大学内で生活するだけでも国際的経験を積むことができます。しかし、やはり海外で滞在経験を積むことによって、日本国内では得られない豊富で貴重な体験を経験することが可能です。是非、学生の皆様に海外滞在や留学をすすめたと思います。

留学する目的には語学研修がありますが、それは目的の一つと心得るべきです。それには“慣れ”が大きく影響しており、それを磨くのは日本国内でも可能です。日本から離れて海外経験を積む目的として、自分の視野を広げること、世の中には多様な価値基準と価値観があって、日本の価値基準は世界から見れば単なる一つの尺度であることを知ること、また日本のもつ文化・慣習の良さ・是正しなければならない課題などを世界の類似の文化・事象と比較して正確に知ることが出来ることなどを挙げなければなりません。これは、日本国内だけに滞在しているだけでは認識することができません。

一方、高学年の学部学生および大学院学生には、留学の目的として留学先での勉学により自身の今までの勉学との相乗効果をねらって現在の勉学に大いに役立てて欲しいと思います。すなわち、研究室で自分が取り組んでいる研究内容を深く理解し、また最新の研究課題を十分に把握し、留学先の研究者・学生と第一線で活躍することが重要です。その意味では、研究室の指導教員と相談の上、留学先の教員を含む共同研究の中に身を置けるような環境を整えることが必要です。そして研究の輪の中に入るよう努めて欲しいと思います。これは、語学研修と違って、“慣れ”では達成することのできない目的です。

福沢諭吉は幕末、明治維新の時代に多くの海外での滞在や見聞を深め、その経験を基礎として種々の書物を書き表し、教育機関を設立するなどして学界や教育界に大きな影響を与えました。筑波大学の学生の皆様には、是非“平成の福沢諭吉”を目指していただきたい期待しています。